



大川廣一先生脚色
道路改良愛護正劇

(當脚本は静岡縣廳内脚色者の認諾を經るにあらざれば新聞雜誌に轉載又は演劇として上演或は映畫等の作製を許さず)



貴

さ

犠

牲

(全三幕)

場 第一場 △△川渡船場附近
第二場 道路工夫世野爲藏宅
面 第三場 慾野深作邸奥座敷

登場役割

年齢

衣

装

△△土木出張所長
技師 道尾通直……………三十九歳……………チヨツキ半ズボン卷ゲートルゴム底足袋

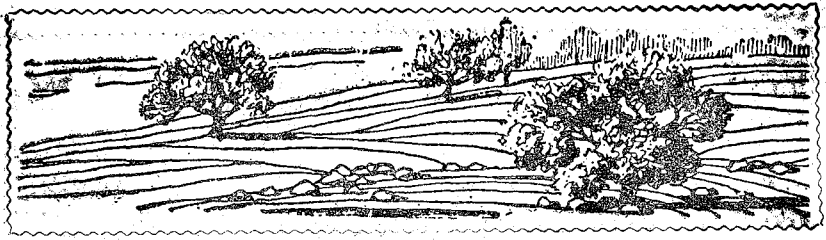
△△土木出張吏
工學士 露木賢治……………二十九歳……………詰襟脊廣半ズボン卷ゲートルゴム底足袋

不二役 場
助役 腰野慶藏……………五十四歳……………セツ下りの洋服に眼鏡を用ふ

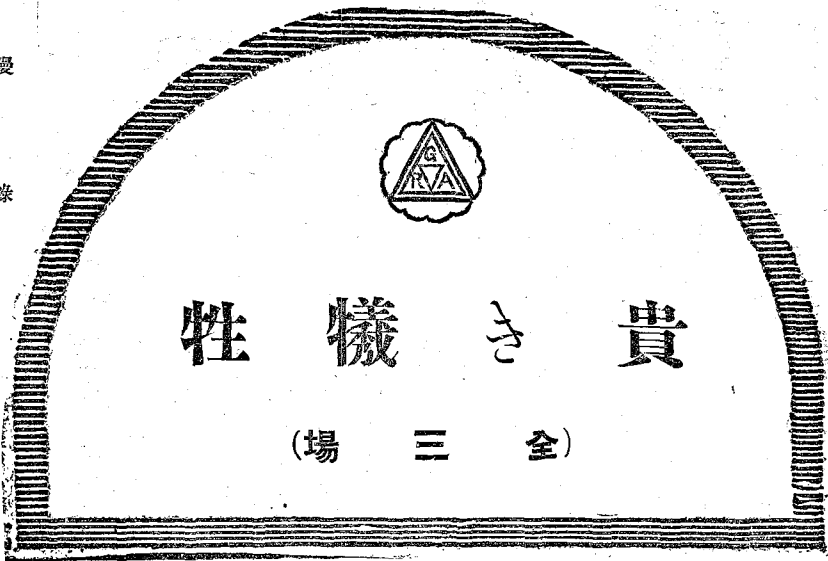
土地の頑固なる有力者
慾野深作……………五十六歳……………質素頑丈なる着附煙管腰下

同人 伴 涉……………二十三歳……………商業學生の装ひ

同人 娘 満喜子……………二十歳……………流行花模様金紗の着付に文化帶



- 洋行歸りの婦人 築堤 徳江嬢……………二十一歳……………洋装 婦人帽に花を装ふ
- 道路工夫長 世野 爲三……………四十八歳……………府縣制定工夫の装
- 同 女房 お高……………四十二歳……………病中故繻の汚れし着附に細帶
- 同 娘 愛子……………十八歳……………田舎縞メリンス腹合帶前掛
(愁野家小間使)
- 避暑の都人士 川谷 隆太郎……………四十一歳……………ヘルメット タオル 投網 魚籠
△△管區土木工手 山坂九郎兵衛……………三十六歳……………沓廣脚胖草鞋穿
- 道路工夫 佐田 練吉……………四十四歳……………縣制定の制服
- 同 島中 幸吾……………二十八歳……………同
- 渡船々夫 舵六……………三十七歳……………木綿シャツ股引腹掛
- 同 掉七……………四十四歳……………同
- 同 苫八……………四十九歳……………同
- 同 鱧十……………五十五歳……………同
- 旅人 (大勢)……………各自隨意……………思ひく好みの拵へいろいろ
- 村人 (大勢)……………各自隨意……………田舎の野良働りきの装ひ種々



第壹場 ○○川渡船場

◆舞臺 後ろ正面山野の遠見、前二尺を隔て、堤防、下手

は水神の森、中央より上手へ斜に河流、凡べて富士川附近渡船場の態、川原の、小さきバラック建の小屋には土木出張所の表札、建物の中には土木技師道尾通直、机上にて何事かを認め居る、露木土木吏は川原に出でて道路工夫を指揮しボールなど應用して測量して居る、附近には、小旗、砂利運搬車、鍬、鶴嘴、鎌、巻尺、シヨベル、鋤鎌など適宜に配置し、バラック小屋の一部には黑板をかけて日程を掲示してあること。



車輪の修繕
愚道路ニハ
毎年三回

荷物損害
二割一分

鳴りもの入りにて賑やかに開幕

俗語安來節の囃し

『**坂路は 疲れる 道抄行かず、遅れりや稼業の邪魔となる**』

コラサツサ……エツサアサアと三味、太鼓、笛の音賑かなり

道路工夫の山坂九郎兵衛は茶をつぎて道尾技師に出し

山へエお茶がはいりました。

道 ヤア……露木君、……休憩時間だよ（ト時計を見ながら）……一服吸い給へ

露 モウそんなに成りますか 何んだか、今日は時間の経つのが馬鹿に早いやうですなア

ト其うちに工夫頭の世野爲藏も入り來たり

爲 どうも今日は川原にも ちつとも風がないんだから（ト汗を拭きつゝ）

露 ほんたうだ……何しろよく照るなア

道 イヤ正直の事言へば地方到る處で、早天々と雨乞ひまでして居るが、われ／＼の方ちや任

事の出來あがる迄は、どつちかと云へば雨は禁物だよ

露 それは實際です

道 昨夜の雨は、モちつと降るかと思つたら、割合に小雨だつたネ、

爲 何にあれでも奥の方は、餘程降つたと見えますよ、水の色がだん／＼と濁つて來ますから

露 何しろ此川ときたら、川幅は、天龍川や、大井川の三分の一しか有りませんが出水の早い事

は、有名ですからネ



道 ソウ僕はまだ此〇〇川と云ふ事には日が浅いが露木君は此〇〇管理區へ出張してから一年半以上になるから此川の特徴にはモ一精通してゐる譯だ

露 イヤ別に精通もして居りませんがネ……精通と言へば、世野などは、此〇〇川にはモウ彼れこれ二十五年も詰めてゐるんですから、此川の主と云つても好い方ですよ

道 ソウ云へばまだ島中は歸らんかね……

露 ハアまだですが……ナイニ大丈夫ですよ、危険區域にや違ひないが昨晩位の降りぢやまさか

爲 イヤそれで思ひ出しました、一寸新田の水門口で、水勢を量つて参ります

露 何うだ、心配するほど、出水があるかね……

爲 ナーニたいした事は有りますまいが、何しろ今年のやうに早天のつゝいた後はきつと出水が大きゆうムいますよ

山 それに今年は 年號が まづいからナー

道 何ダイ其れや……

山 でも三ノ數字の付く年にや、妙に大出水 がありますので、明治四十三年に大正三年 今年丁度 大正十三年でムいますから

道 ハハ……古いぞ

爲 まあ此間に行つて参りませう

△ト世野は下手に入る 入れ違ひに島中は馳せ來たり



島 道尾の旦那やつぱり 案じた通り、彼の大きな 柳の樹から上へ十六間の ところが すつかり、洗ひ堀られてしまいましたよ

道 矢張りソウかな

露 あいつは早く 土留石積をして、しまおうと思つたんですが、どうも材料が遅れてたので

道 しかし打捨らかしく譯にも行かんから、今日は、ソレヂャ。日程を變へて總がかりで、土留石積の方やつちやをう……露木君、君は一つ御苦勞でも、役場へ行つて腰野さんと、二人で例の問題の、慾野さんの家へ往てみてくれませんか、今日が、返事のある日だから

島 まだ決まらないんですか、没常識にも困つてしまいますなア

道 何しろ ちつとも公德と云ふ事を考へないんだからナ

山 しかし彼のワカラズヤの爺に、似合はない、忝や、娘は評判者ですよ

島 だから村ぢや鷹が鷹を産んだと云てらゝナ

道 へエ娘さん計りと思つたら息子もあるのかね

山 エ、涉さんと言つて、東京の學校へ行つてゐるんですよ、今は暑休で家に居ますよ

島 ヤアさう言へば露木さんに、オゴラセなきや、なりませんよ

露 何を?

島 何をつて、彼の慾野の娘が、大分露木さんを、賞めてるとの事で

山 ウム己も ソンナ事聞いたッけよ



露馬鹿……賞められた怒こられた笑われたで、オゴツテちや、俵給ちや、足りなくなるよ何しろ、見込の好い方だからナアハハア……（ト笑ふ）

△それから上衣を着て一寸手と顔を洗ひ仕度をして

露ちや行つて來ます、（ト下手へ向ふ）

道 ヤア御苦勞さん……こツちも出かけるかな。ト其間に山坂と、島中は小車に機具を積込み、空を見て（糞）をも積み

兩人 兩人さアできました

△ト此處へ世野も歸へり來たる

道 あゝ世野君いゝところへ來た、矢張り駄目だつたとよ彼の柳の上、十六間の個所がよ爲さうでしたかナ、私も雨がどうも強かつたと思つたんです……

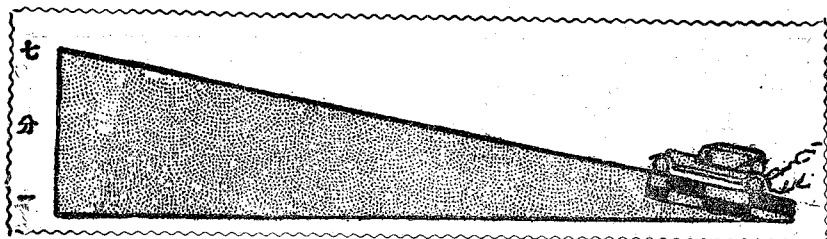
道 今日日は日程變更で、總がゝりで、土留石積を、やつちまをう、してどうだい 水量は？

爲 ナーニ新田の水門口はまだ、昨日とちや四寸計りしか増して居りませんが

道 フム……

△ト此時工夫の佐田は入り來たり

佐 ヤア遅くなりました（ト道尾に挨拶して世野を見）あゝ世野君、今お宅からことづけ頼まれてきたよ、どうも お高さんの（爲藏の女房）氣分が悪いので、晝休みにでも、歸れたら一寸來るやうにと



爲
.....

道
フウム世野君の妻君は、此間寝ついてから、づうツと悪いのか、其りやいかんな……

あれだつて、道路愛護性の缺陷からだよ、往來がせまくて危険だから、道幅擴げてくれると再三の陳情だらう、最モと思つて、他の事業を繰のべてまで、やつてやりや今度は往來の擴がつたのを幸ひに、道端へ横柄に涼み臺を出したり塵芥箱を出したり、甚だしいのは、自家の納屋へ收容すべき物品を、夜間平氣で街路へ置くと言ふ、どうしてコウモ道路を愛護すると言ふ事に世人が注意してくれないのか世野の妻君なども先月の月末に、僕が使をたのんだ其歸へり道に例の慾野が、しかも往還の半分を占用して荷車數臺を放置した、ソレへ氣の毒にも、衝突したのが原因で、其時、強く肺部を打つたと聞いたが、實にお氣の毒だナ
爲
ナーニそれも、往來へ物を置いた人計り悪いのでもありますまい、私の女房も、不注意だつたんで

道
ウム……と コウしたまへ君はまだ、今月は一日も、休暇もとらないし、ソレに 今まで

休みだつた山坂君も來たし 一人位手が減つてもいゝのだから、チト妻君のめんどうを見てあげて、それがすんだら現場へ來てくれ給へ

爲
ソウですか、夫れぢや、お言葉に甘へるようですが、一寸行て見て參りますから、

△ト世野は下手、道尾等は上手へ入る、舞臺は空らになる、

△流行歌のはやし、一段と賑やかに誰が口ずさむか

十分一



「二 湯千里の自動車も、坂ぢや 喘ぎ喘ぎ登り行く」

△ト安來節の唄にて慾野の子息 涉は、小間使 愛子と出で來たり

涉 愛子おまへ、疲勞れたやうだネ

愛 イ、エ別に、くたびれやしないですがあんまり、若旦那がお早いんですもの

涉 僕が早いんぢやない おまへが遅いんだよ……イヤ此堤防はいつ來ても、見晴しがいいね

愛 ほんたうでういますわ、それに、今日は昨晚の雨に引き代へて日本晴れで、お山がなんだかいつもよりは、きれいに見えますわ

涉 ソリヤお山だつて、今日はまけずに、きれいに見せるさ……お前と私が、餘んまり仲がいいので、負けない如ふに、愛鷹と並んで、私達と 競争してゐるのだからネ

愛 まあ………

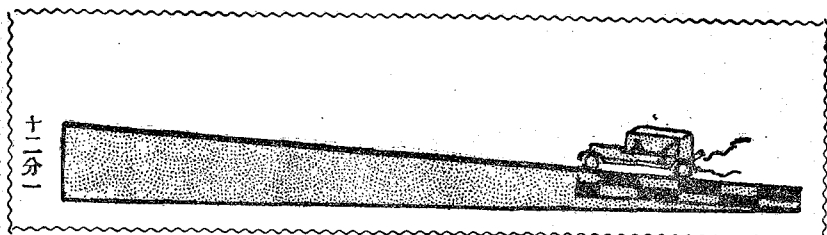
涉 しかし、おまへとかうして、楽しく暮すのも、モウあと十日か……學校が始まりや、いやでも 別れなくちや、ならないナア

愛 ネ………若………旦那様

涉 ナンダ、お前何んで泣いてるのだ

愛 若旦那様 學校が始まらなく共、やがては、永久にお別れしなくちや、なりませんは 涉 何だつて

愛 でも若旦那様は、來年學校を、御卒業遊ばすと、一年志願で



十二分一

涉 ウム國民の三大義務の一たる兵役をすまして歸りや、お前と楽しい家庭の人だ

愛 それは、若旦那が、何と仰つても、無駄でムいます

涉 ア……夫ぢや、おまへには、他に先約が

愛 まあ……

涉 ソウでなかつたら……お前……私の心中を、諒解して呉れても宜いだらう

愛 エ、ですけれ共、私は とても、貴汝の、夫人さんなぞに……

涉 なんでなれない

愛 私身分が……

涉 身分が何んだと、言ふんだ

愛 アノ貴方は 此村で一番の資産家の御相續者、私は……たかのしれた工夫の娘……とても……

……身分が

涉 何が身分が違ふんだよ 現代はソシな貧富の別を、とやかう言ふ時代ぢやないよ……己れの

家として何時窮乏に陥るか、それは時の廻り合はせだよ

愛 でも貴下はそう仰つても、大……大旦那様が

涉 お父さんが、何んと言んだ

△ト此時分より慾野深作は舞臺の隅へ顯はれ木蔭にて兩人の話を聞く

涉 おまへは、まだお父様の氣質が、呑み込めないんだ、ソリヤお父様は、ふだんは、ほんとう



十六分

に 何事にも判らない事言つてもネ、子煩惱は、ソリヤ人一倍強いんだ、ダカラ、僕が愛してる、おまへを、何んで……いゝさく、それでも萬一お父様が、ドウの、コウのと仰つたら、其時にや、親不孝かも知れないが、親を捨てても、僕は 自然に生きるんだ
愛 若旦那様、ソリヤ事をなされたら其れは

△ト此時慾野深作耐まりかねて立ち現はれ大聲にて

深 馬鹿奴、親を 捨て、自然に活きる……ソウ軽々しく、親を捨てられて耐まるかッ

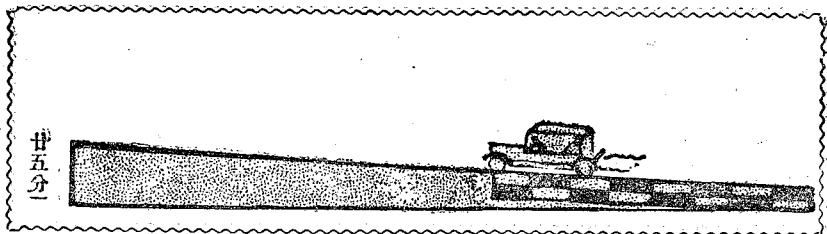
△ト涉も意外に驚き愛子は殊に慌て、傍の木立にかくれる

涉 お父さん どうしたんです

深 どうもかうもあるもんか、子を見る事親にしかず、ドウモ此頃貴様達の素振が怪しいと睨んだ己れの眼にくるいは無んだ、折角今日まで苦勞して築き上げた身代や 馬にも牛にも蹴られぬよう、大きくした 子供をナたかの知れた道路工夫の娘なんぞに、自由にさせて耐まるかい

涉 お父さん、ソリヤ事 實に馬鹿くしいぢやありませんか 假令此事が事實でも、責任は愛子には少しもありません、皆僕に……

深 何を言ッてるんだ、今日はおまいには、ヨウ言はん(ト最前木蔭にかくれたる愛子を引張出して)此阿魔め、ふといやつだ、貴様は 初生な學生氣質の、おれの憐をよくもだまして、クダラヌ事を……と引き倒す



廿五分

愛 大旦那様……………

深 此頃、貴様の親父の爲藏が氣にいらぬ、人の家作を借りて、居やがつて其家主の己に無斷で、縣廳の役人とかを 寄食させやがつて己の不利益な事計り計畫させやがつて、まだあきたらず、自分の娘に智慧つけて、色仕掛で、己の家の財産を、横領しようと 言ふ考へだな

愛 大旦那様私は 假令、なんと お叱り受けましても、致方御座いまんが 何にも知らぬ父にまで

涉 ほんたうに、お父さん亂暴ない、よく お愛心配するな、僕が知つとるから

深 いや貴様などが何を言ふ、後とも言はず今此處で己が立派に解決してやる…… コリヤ お

愛、不義者は己の家へは置く事が出来ん、今限り暇をやつた、手廻りの物は、あとで雇人に持たしてやる、己の邸のしきるを再びまたぐ事はならんぞ

愛 ……………

涉 ソリヤ餘り亂暴です何を以て不義呼ばわりをなさるのです、若し又不義者として成敗さるゝ者ならばソリヤお愛ばかりぢやない、兩成敗です私も今日限り家から出ます

深 (深作餘程あわてゝ)馬鹿な、おまへは、餘ほどお愛にだまされてる、女と男は立場が違ふソんな無茶苦茶な

深 いや誰が何と言つても、お愛、己れが暇をやつた、今限り邸へ来る事は出来んぞ

愛 旦那様妾が悪ふムいしました、けれ共今お暇を出されましたは、父母がどんなに心配致しますか



深 それは己おれの悪せがではない、貴様の勝手だ

△と親子主従相争ふところへ深作の娘 満喜子出で来たり

満 まあ皆居ないと思つたら、こんな所で
 涉 オム満
 喜子、
 いゝ處
 へ来た
 と(さ
 も味方
 を得た
 やうに)

愛 お嬢様、
 どうか*

お父さんが、わからないんだ……いや僕が、悪いのだよ、實は おまへも 知つてる通り、
 僕が ソリヤ……愛子をム……ネ

深 折角育てた大事な婢、こんな婦に 自由にされて耐るもんかい、それだから、己が成敗して、



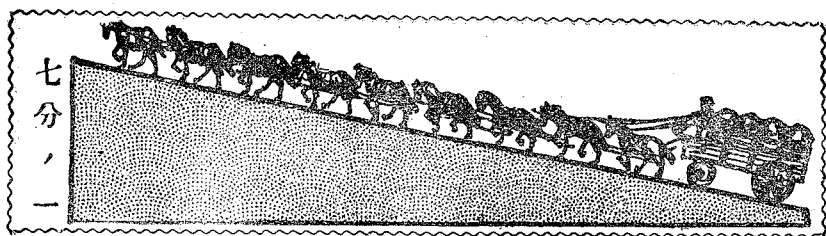
*お助けな
 すつて下
 さいまし

満 まあ愛サ
 ンどうし

たの

涉 ナーニ愛

子が悪い
 んぢやな
 いんだ、



いま暇をやつたんだ

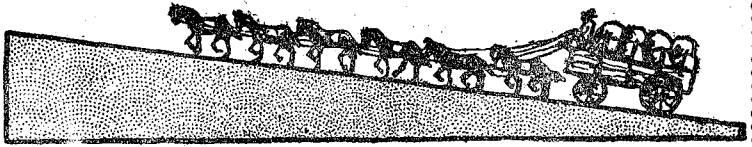
満 まあお父様の無理解にも困るはネ……若い男女が美しい愛を持つのは、別に不都合はないじやありませんか

深 満喜子、お前までが餘計な……第一よく親の前で愛だの戀だのと言へたものだ、愛子と涉とは身分が違ふわい

満 お父様、身分と仰しやるけれ共、現今は、身分よりも、むしろ本人同志の心掛が、大切ぢやありませんか、昔から五戒を保たなければならぬ、僧侶ですら 只今では妻帯を許されて居

るのです、いわんや、青春の血の横溢せる、萎れ／＼の戀愛に關する問題の考究は、親より、我れ／＼若いもの、最も特權とするところよ、併かも純真なる愛を、不義だなんて、兄様も愛子も決して不義者では御座いません。朝夕したしく顔を見合はしてこそ、初めて美しき戀は芽生へるのです、愛や戀は自分達にふれる、せまい周圍から選ぶのが宜しいと、歐米の哲學者は、夙に唱破してゐるぢや有ませんか

深 ナール程な、これだから此頃の學問は仕込んで善し悪しだ、コリヤ、已ればナ、涉にも、おまへにも、親不孝したり、親をやり込めさせる爲めに、學問を仕込みやしないのだ、親の心子知らずで、ナンだ今の口上は……ペラボウな、おまい達、子供の行末を思やこそ、今日までかんなん辛苦をして蓄積したのだ、其資産を、他人の娘達に、自由にされて耐まるもんか、これでもたたりないあゝでもたたりないと思やこそ、六年前に、彼の恩地の太十の、お人善しに附



込んで、僅かな金の貸借問題から、此渡船の権利も取り、又最近には此川へ鐵橋がかゝると聞いたから六年前に智慧をしほり、靜村の末亡人をだましてな、此附近一面の地所を買収したのもナ、地價の昂がるを見越してやつた己の恠畫だ、それ程までにして、貯める金は皆なお前達の爲めにする親心からだ（ト喋べり、フト飛んだ内情までシヤべつたと四方を見廻はし）……まあ何でもいゝ、愛子は暇をやつた、誰人も口を出す事を許さん

浦 お父様ソナ亂暴なこと其れは

深 ウルサイ亂暴ぢやない 當然だ

浦 お父様 ソレぢや 夫れは後程家でゆつくり解決するとして、今役場の腰野助役さんと 工

學士の露木賢治さんが、家へおみへになつて、お父様に是非……

深 また 彼奴等は、己の家へ来て 己に地所を譲れと言ふのか……よしッ今日は己が將來 來
ないよう、コッぴどい目に遭はしてくれる

△ト意氣込で去る

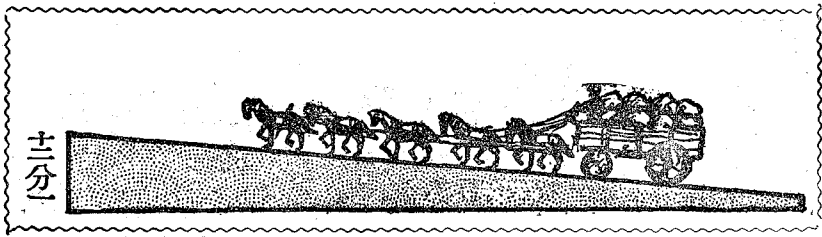
浦 いゝわよ兄様 姜責任を以て、お父様を 説破するから……愛チャン心配おしでないよ

△ト父の後を追ふて入る

涉 満喜子たのんだよ、

愛 私の輕はづみから 申譯がムいません

涉 ナーニ皆僕が悪いんだ……ところでネ 愛子や、おまへも 知てる通り 僕の父は、熱した



三分

時には、人の言ふ事なんぞは 耳にも入れんし又入りもしない、あんなに怒つてゐる矢先へ、當のおまへを連れて歸つて 此上お前に憎しみがかゝつては、お互の爲めの障害だ、無理でもあろうが、私と妹とが、父を説得する間いやでも有らうが お前は自宅へ歸つて居る譯に いかないか

愛 私家へ……

涉 いや 決して僕は薄情な意味で、一時脱れに 言ふのぢやないんだ……よう／＼ 私の心を 信じてネ お互の便宜のため

愛 よく判りました 實は私も御奉公に上る時、父にも母にも誓つて上がりましたので、今更ら 中途で お暇になつたとは……ホント……に歸りにくいのですが お互の末へ……のためと 仰しやるなら……

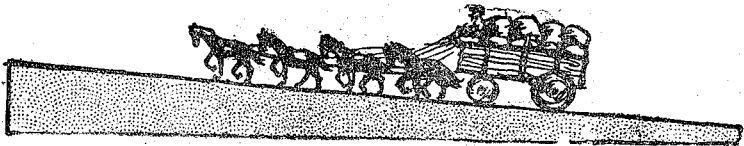
涉 歸つて居つてくれるか 其代り永い事とは云はないからホンの二三日の事だから

愛 イ、エ假令 三年が四年でも 貴郎の幸福の爲ならば……家へ歸ります、……が涉様……若し大旦那様からお許しが出たならば

涉 あゝ 直ぐ僕が迎いに行く

愛 どうか 其お言葉が……反古にならないやう……

涉 どうして反古にしてよからうか、よし此不二川の水が枯れるとも 此の私がお前に對する愛の泉は 永久に涸れる事はないのだ



△ト涉はツト進み寄り愛子の手を握る折り突然と鮎網の打人來たりて投網する
 兩人驚き左右に別れる網打川谷隆太郎も怪奇の眼にてつけまわりになり とんだ邪魔
 をしたと ニヤリと笑ひながら

● 路面が良くなりや 掛りも安く 自然生活も楽になる

ト安來節を唄いつゝ去る 兩人は後を見送る 最前より世野爲藏は此様子を立聞く、
 愛 あゝ、ビックリしました どこの人で△いますぜう？

涉 此田舎の人では ないよふだネ 都人士の避暑遊びだらう、がコウして一つどころに

長く居ては人目も五月蠅から 私がおまへの家の前まで送ろう

愛 イ、エ 夫れでは却つて人目にかゝります……妾一人で歸へれます

涉 一人で歸へれるかい よく氣を付けてネ

愛 有り難う△います、夫れでは 涉様

涉 身體を大切にし 僕が迎に行くのを待てておくれ

△ト涉は悄然として去る お愛は暫し後と見送る、父の爲藏も涉を見送る、

そして思はずお愛と顔見合せる

愛 おゝ お父さん

爲 ……………

愛 お父さんは いつ此處に居來らしたの？



五十分

爲 己ら先ツきから居て何もかもおまへ達のいきまづは皆聞てるだ

愛 お父さん すみません 許して下さい(ト父の前に泣き伏す)

爲 ナーニ お前計り悪いぢやない、親の己も行届かなかつたのと 二つには 矢張今度の意氣張りづくも 手傳てるだよ

愛 今度の意氣張りつてナンですのお父さん

爲 ソーラ 此橋を架ける事でな 己達の方からいろく〜と欲野さんの氣に入らねい話許り持ち込むので、江戸の敵を長崎で討たれただ それにナ、お母ろも 二三日前からまたウント氣分が悪いから 丁度人手もたりなくつて 實は、御暇貰いに行かうと思つて居たが 矢先が矢先で、感違されちやならねいと 差控へて居たところだ

愛 お母さん具合がまだ好くないのですか……お父さん 叱らないで妾を家へやつて下さい……

爲 何を叱るだ……ダガナ……お母が 又心配すると不可ねいから、今日己が 看病させるで暇貰いに來たので歸つて來たと云つて置けナ 其中お父さんも歸るから

愛 お父さん……御恩は……忘れません……

△ト喜嬉として我家へ行く、爲藏はホット一息する 此時道尾の一行は歸り來たる

道 オウ 世野君、妻君はどうだつた

爲 ハア 有がとうムいます どうも思はしくないので

道 困つたナー



本
年

爲して現場は

道 皆が懸命にやつてくれたので 應急修理は出来たが念の爲五人丈け居残らしてある……

夫れより露木君はまだ歸らんか

爲 ハア 私 三十分計り前から居ましたがまだ

△ト此時露木工學士頭部に負傷して腰野助役に助けられつつ登場 道尾は之を見て

道 オオ どうした

露 ハハ、ハ、馬鹿々々しくつて お話になりませんよ

腰 ヤアどうも 御案内しました 私が面目ない始末で

露 ナーニ別に 貴下がお悪いのでは無いません……實は早速あれから役場へ行つて 腰野

さんと 打合せてから二人で出かけてましてネ、交通の上から或は經濟の方面から或は雨水の關

係から、其他色々架橋の必要を説いて 土地の讓渡を申込んだんですよ すると どうし

ても 承諾してくれんのでネ

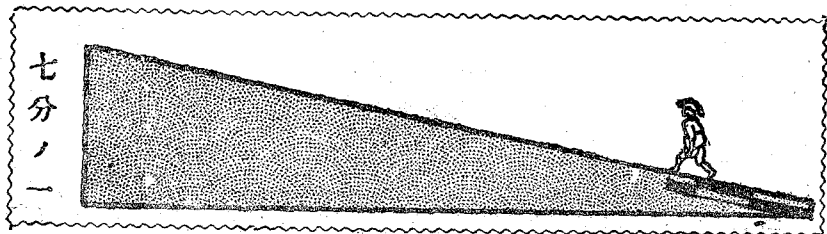
腰 私も腹にすへかねて、土地收用法の説明したところ、露木さんが 入智慧をしたと、

突然、火鉢の傍の算盤を振り上げて露木先生に

道 ウム……ソナ亂暴な……ソリヤ……

露 ナーニ 職務の爲にや 命を とられても仕方がないです

ト此時爲藏は 露木の傷部に 繃を巻き代へる



折から 自轉車に乗りたる急用らしき通行人來たり

急 ア、又渡船が向側か 實に困るナ また一服だ

△ト又此處へ大きな風呂敷包を背負いたる 小僧來たり渡船を待つ

後より、荷車を挽いたる人、旅の藝人親娘、村の者、郵便集配人、など追々と集まり、渡船の來ぬのに一同待ちあぐみ 荷車を挽いた男は

男 困るナ、此處の渡船は不規律で 是から又一里計りの停車場まで引込んで 此五時の汽車に積込みにや ならんだにコンナ事ぢや間に合やしねへ

又旅藝人は

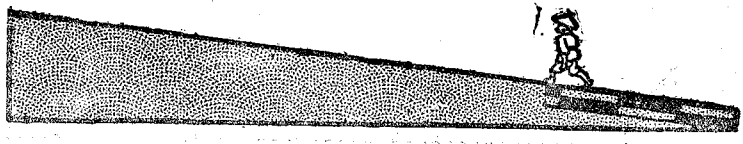
藝 それでも 皆さんなどは、土地も近いし、寝るところも決まつてるんだからいゝが 私達みたいな、落つところも きまらず 早く向地へ行つて 一軒でも餘計廻はつて食扶持を稼がにや ならない者は、ほんとふに 氣が氣ぢや有ませんよ

ト通行人の一は

一 ほんとに 何んだつて、コノ東海道でも とりわけ人通りのある 此川へ橋を架けないのでせふ

通行人の二は

二 ナニニ架ける 架けると 言ふ噂は 三四年も前からありますがネ 割合におかみの仕事なんてのは のんきとみへますネ



十分一

此時道尾等は

道 別にのんきにやつてる譯でもないんですがネ 種々の邪魔物がありまして遂々

一 あゝ 貴下方縣廳のお役人さん

道 エ、 皆土木の係りの者ですよ

二 あゝゝゝ 飛んだ事(ト口を押へる)

道 いゝんです 遠慮せつに言つて下さい、當然な事ですから、全く當時 しかも 此交通上最

樞要な地に橋一つなく昔じみた不便な渡船で お金を出して渡らなげりやならないなんて

ト此時村の女房

女 何ニ ソリヤ 渡船賃の五錢や十錢位はどうても いゝようなものゝ水が出たツちや止まり

風が吹いたつちや止まり お天氣だつて夜十時迄にや 止まつちまんですからネ

道 しかし 此不便もモウ直きになくなりますよ 此川へも立派な鐵橋が、三年計畫でかゝりま

すからネ

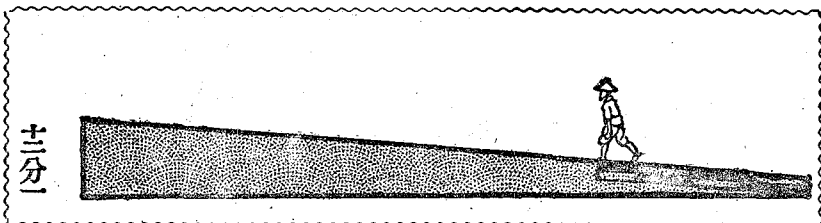
旅 而うですか 早くソウして頂きたいもんで(ト上手の方を見て)あゝ 漸く渡船が来たゝ

ト上手へ渡船が着く 船より洋行戻りの 築堤徳江嬢頗るハイカラなる洋装にて船より

降り 其まゝ行かんとす 船夫頭の舵六は 慌はてゝ呼び止め

舵 モシゝハイカラさん 渡船賃を置いて行つて下さい

ト言ふに徳江子は 驚異の顔して



德 何んですつて マネーを置いて行けと云ふんですか？

舵 マネーなど居るもんかナ 乗つた女はおめいさま一人だ

德 いゝエ お命がいる 駄賃が必要だと言ふんでせう？

舵 あたりめいだ ベラボーメ 川こそ小さいが 此急流、大の男が四人掛りてさへ 骨の折れる 此渡船 誰れがただで渡すかい

德 何ですつて 天下の公道を交通するに 金を出してでなければ 通れないとは 實に時代錯

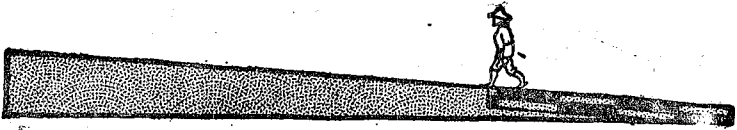
誤も甚だしいといはなければなりません しかも察するにです 當所の如きは 交通の要路に あたつて幾千幾百の人馬車も往復のある處で 夫れ等の人達が一々渡船賃を仕拂つて

しかも 危険で 時間がかゝり 不便と知りつゝ 交通の聯絡を 此渡船に托して居るとは 如何に天に富岳の麗峯、地には富士の溪流、山紫水明と氣候風土の静けさを誇るとも 此地に永住するの人達こそ 文明の恩典交通機關の發達の恩恵に 浴せざる悲しむべき哀れなる人達ではあるまいか

舵 アーメンか？ じょうだんぢやない、お経や理屈は用がねーだ、己はなんでも 金さへ貰へばいゝのだ

德 さあ お金をあげないとは言ひませんよ 言ふべきを言ふて聞かして、會得したと言ふなら上げて宜しいです、之れは世の爲めです

一同 ほんとに然うだ……年は行かぬが見上げたものだ……仲々シツカリしてゐるオイノ船頭さ



ん、グヅ／＼せずに早く渡してくんねい

舵 待て／＼ 出そうと出すまいと 己の勝手だ

ト此中に徳嬢は渡船賃を仕拂ひ去る 舵六は態と悠々とし漸やく

舵 さあ皆乗らツしやい

△通行人はお互に助け合ひて 船に荷物車を積み、渡船の不便さを演出する

此處へ慾野の娘満喜子來たり

滿 あゝ 大勢だことネ 此の次ぎにしよふ

舵 嬢様大丈夫でムいますよ

△露木は道尾と顔見合せて 平素より増水して居るし且つ餘りの多人數に

露 オイ／＼君 ソンナに大ぜいでは危険ぢやないか 水も増してるから 二度か三度に渡しち

やどうだい

舵 ナーニ 此位の水で危ふながつてちや 渡守は出来ねいや いつもは モット乗せるだよま

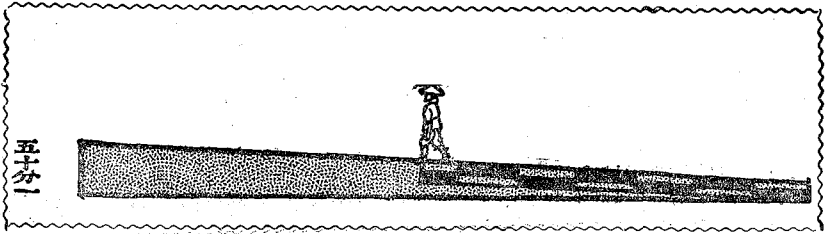
かり違つたつて山に落ちるぢや無い 水の中へ落ちるだからナ あは／＼／＼

露 假りにも 交通機關の一部を預る者が ソンナ無責任な事 言はないで 二度にしたまへ

舵 ソリヤ 己も 少し乗せ過ぎると思つてるが 二度のところ一ペンで濟ましや こつちも

樂だし 船の往復計り 多くしても 渡船賃が少ねいと 且那に怒られるので……ハイ御免

ナせへ



五十分

トさツと岸をはなれる

道 何しろ 責任感念のない 連中によ 困るネ……

△ト此時工夫佐田、山坂、島中、など歸へり來たり、道尾等に挨拶して機具をバラツク

内へ運ぶ 世野は

爲 ヤア 御苦勞く、少し何んだか病人が悪かつたので

皆 ソリヤ いけませんでしたナ（ト露木の頭部の負傷に氣付きて）どうなさいました

ト此時机上にて何か書類をしたゝめ居たる腰野は

腰 ヤア 引つゞき御苦勞様です 今日ほんとうに露木さんにお氣の毒してしまつて 例の

没常識がネ

皆 あの慾野の……

露 まあいゝさ 大した事ぢやないから

腰 それでは其處へ例の 私の方の地元の方丈け 兎も角も書きあけて置きましたから 何れ村

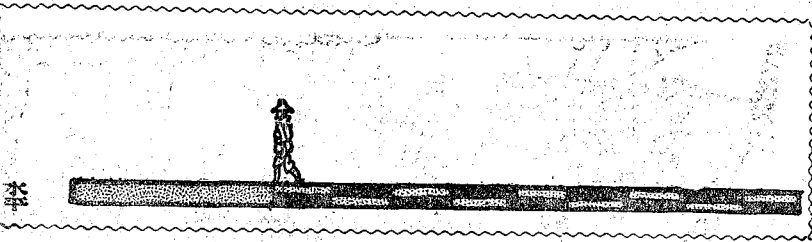
長にもお話して明日改めてお見舞には伺ひますが お大事になさいませ……

ト挨拶して退場する、此時川の中央にて 突然渡船顛覆救ひを求むる悲鳴

爲 ホレ見ろ、大變ぢやねへか。

道 何ツ顛覆？

△早速、道尾、露木、初め居合せたる工夫等一同救助に懸命なるに、船夫の舵六、棹



七等は遭難客を打捨て 自分達丈け早くも 這ひ上りて衣類を絞ほり等し居て責任を知らず、乗客の中にも 慾野の娘は 人より以上に 水を呑みたと恐怖とにて 絶息せるを道尾と、露木と、爲藏とにて 引き揚げ来るや佐田は之を見て

佐 露木さん 他の者は助けても 其娘丈は 止めなせいあんたに怪我さした 彼の わからずやの娘兒だ

露 ウム 夫れだから 尙ほ助けなきや いかんのだ

山 だつて 坊主憎けりや 袈裟まで憎くいだに

道 オイ 少し鹽湯を拵しらへろよ

ト人工呼吸法を ほどこす 舵六は

舵 ヤア 家の嬢様だ 棹七早く知らして來い

合點だと棹七知らせに這入る

道 君等は渡守の業にありながら自分計りの事をして居て、乗客救助に働かなかつたのはけしからんぢやないか……無責任も極まる……オイ島中君 水田さんのところでも一時借りて、休養所に充て、呉れ玉へ、僕は縣廳や警察へ電話をかけるから

島中等は遭難旅客全部を それく親切にして案内し這入る 負傷せる者には土木出張所にて種々應急の手當をする 爲藏は幸ひあり合せの クヅ菓子にてクヅ湯を作り、露木等の介抱で蘇生したる満喜子に



爲 サア 嬢さん召上りなせい

滿 マア皆さん 危ぶないところを 有がとうふムいます

ト此時嬢 椿事を聞いて 犢氣の如く馳せつけたる慾野は

深 娘はどうした 滿喜子 滿喜子

ト滿喜子の無事を見て

深 オ、無事だったか

滿 お父様……

深 是で良い 己れはお前が一大事と聞いて 他の客人は、どう共なれおまへ丈はと 水天宮様

へ念じながら驅けて來たんだ

此一語に道尾等は 呆される……

滿 お父様 何んです 皆様のてまいへ對しても ソンナ

深 何んだ 誰れに遠慮がいるか ほんとうの事だ……夫れより サア 早く家へ歸へれ 水を

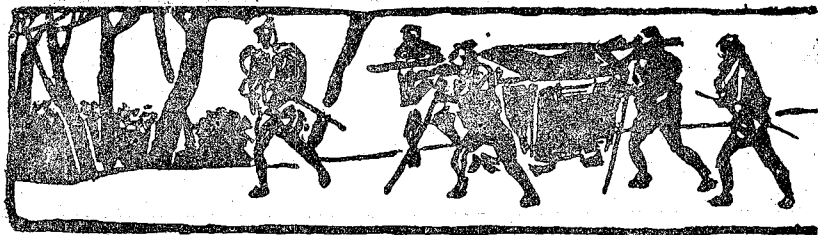
呑んだか どこか苦しいか

滿 お父さん 何です勝手の事計り言つて 救つて下さつた肝心の御方達に御禮も 言はないで

妾は 既に死んで居たのを出張所の皆さん方が助けて 下さつたのです

深 何に 死で居たを 助けて……！ 誰れに

慾野は露木と顔見合せる



露 オ、慾野さん 先程は どうも御邪魔しました 實は今の渡船の椿事で お令嬢が水中に

陥られ既に氣絶されて居たんですが……今度此出張所へ主任として來られた、道尾さんに助けていたのです(ト道尾の方に向ひ)

道尾さん此方ですよ 當村の有力者で慾野深作さんと、慾野さん、こちらです 道尾さんと仰つしやるのは

深 ウム 君ですか 役場の者や 輩下を煽動して ヤレ己の宅地を譲れの 立退けのと

滿 お父さん 何を失禮な事を仰つしやるんです 命の恩人方に向つて、妾一層死にたい……死なして下さい

深 何をだ別に改めて言ふまでもない、人の命が危ないとき助けるのは コリヤ 人として當然の仕事だ ソンナ事に 一一禮を言つてたまるか、ソレニ 己れは土木の係の奴は 大嫌ら

いだ 己の利益になる事は 少しも言はん奴事だ

道 ハハア 慾野さんは 余程 興奮してらしやるのです、私はもとより 禮など云て頂こうと、人を助けたのでは有りませんが、此今日の椿事につけても 渡船の危険と不便が御判りであ

らうと思ひます どうか貴下お一人さへ御承諾下されば 工事にかゝれる事ですから

深 ソレ見ろ 口開きや 己れの 損の行く話ばかりだから 土木の役人は、毛蟲同様大きらいだと、言ふんだ

最前より忍耐し居たる工夫の連中大勢



工 何ツ毛蟲だ

ト意氣組む

深 どうすると云んだ 大ぜいで 己一人を打つと言ふのか

ト傍にありしボールを取る、満喜子はお父様と縋る折から馳付けたる涉も仲に入る、
爲藏は工夫一同に待てと言ふ 道尾は聲をはけまし

道 諸君 此位の事に 忍耐出來ずして 道路の改良と愛護の大事が果せるか

ト戒しめる 一同無念の思入、涉は一同にすまぬと目で詫び頭を下げる、満喜子は泣
す氣味合にて（木頭）

深 よしッ みんな爲藏の指示だナ 覺へてろ（幕）

第二場 工夫世野爲藏の宅

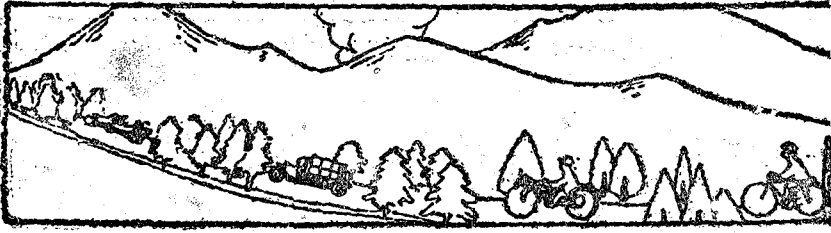
舞臺 下手世話木戸附、中障子の中世話平舞臺 上手九尺の病室 下手窓際には簀、笠

鋤鍬 鶴嘴正面には黒板を掛け凡て工夫頭世野爲藏宅の戀世話合方にて幕あく

ト上手病室一間には爲藏の女房お高病み衰へ横臥して居る娘愛子は看病しながら

愛 お母さん 氣分はどう

高 あゝ有難ふよ、おまへが看病に来て呉れてから大變に具合がいゝよ……併し御主人の方も忙



しいだらうから明日あたりはモウ歸つてもいゝよ

愛 ……いゝへ…お母さんソナに私の事など心配しないで、下さい…私…家の都合では

モウ歸らないでも良いんです

高 何んだつて愛

愛 否へ…且那様の仰つしやるのには…モト／＼お母さんの病氣は己れの不注意から起つたんだから己に代つてゆつくり看病して来い…と仰つてでネ

高 而うかいソレならば良いけれ共ネ…あゝ夫れよりお前 露木さんや道尾の旦那の雨に濡れた物皆ゆすいで置いたかネ

愛 エ、ちゃんとしては置きましたが何しろ此お天氣でせう降つたりやんだりでよく乾かないんです

高 お父さんはまだ寝てるかネ

愛 エ、よくやすんできますよ

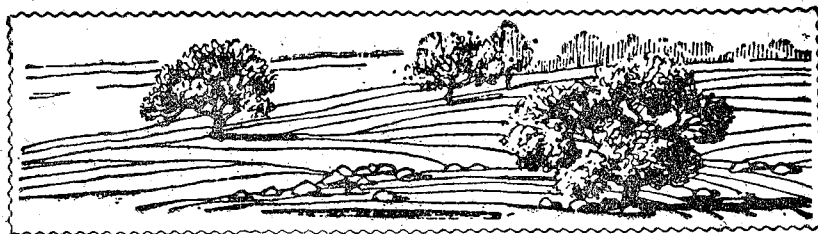
此時惣野の悴涉は外にてうろ／＼して居る

高 あゝ此間に私お勝手の水を汲み込んで置こう

ト戸外へ出て涉と顔見合せて

愛 まあ若旦那様

涉 お愛



△お高は聞つけ

高 愛や何んだネどなただネ

愛 ……………エ……………彼の……………若旦那……………様

高 まあ……………若旦那様なら尙ほ更ごちらへおいれ申たらいぢやないか

愛 ハイ……………若旦那むさい家ですが

涉 ア、實は今日はお前のお母さんにお目にかゝりたくつてネ

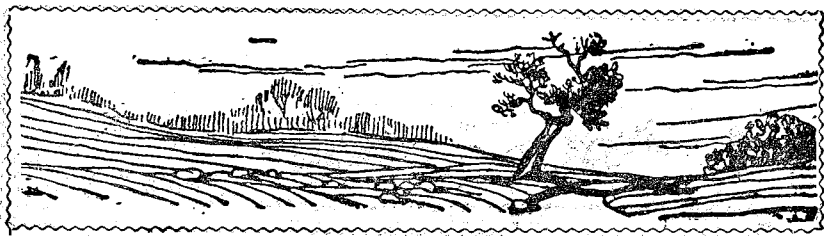
愛 エ、

△此中に涉は座敷に上がり、起き上らんとするお高に

涉 あゝお母さん動かないでドウカ其ままで 實はとうにお見舞に伺はなければ成りませんの
いろく〜と御存じの通りの父の氣質だもんですからついく〜誰一人として今日まで伺はず
ほんとうに申譯が有ませんドウカ許して下さい。

高 どう致しまして ええお宅様計りがお悪いのでは御座いません 私も不注意だったので御座
いますから何んのあなた

涉 どうして おばさんの方に 不注意が 有るものでせふか 何しろ天下の往來を平氣で 私
事に占領して 夜とは言へ 亂暴にも往來へ荷車を出してをいた計りに 不幸にも おばさ
んが 突きあたり ひどく胸を痛めたので 責任は私の父にあるんですから 本来ならば
醫藥の手當から 何から 何まで 父が負擔しなければ ならないのですが 御存じの通り



の世間へ少しも親たし味を持たない父ですから私と妹がいくら言つたつてお見舞一つするんぢやなし定めて貴下方や世間の人達が不人情者とつまはじきしていらつしやるだらうと私達兄妹はどんなに心苦しいか判りません(ト懐中から金一封を出して)……そこでネおばさん怒らないで下さいまし是はほんとに零細な金なんですが妹と私が父に内密で……ホンノお恥かしいが志丈なんですせめて幾日かの薬價のタシに爲すつて下さいまし

ト出す金をお高は手を振りて制止し

高 飛んでもない若旦那様……我儘一杯な娘がいろ／＼と御厄介になる計りかこうしてお長家にまで住まわして頂きます私達何んで御主人様を怨んだり致しませふそれにこんな大層もないお見舞金モウ頂戴したも同じ事です

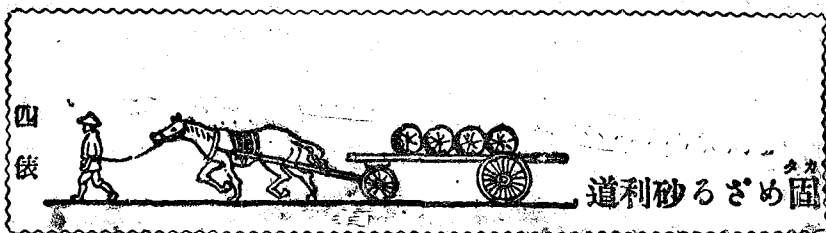
涉 而う言はないで是れは妹と私の心計りですから是非!

高 イ、エ、それでは私共が心苦しゆう御座いますから

涉 ネーお愛おまへからお母さんにお願しておくれな!

愛 お母さんあんなに若旦那が仰しやるんですから

爲 △此時奥に寝て居た父爲藏は中障子内から出て來たり
若旦那折角ではゝいますが其お金は頂く事が出来ません



高 あゝおまいさん

愛 お父さん

爲 いや若旦那様 定めていんごうな事云ふ夫婦とお思ひかも知れませんが 世間様は一口に道路工夫と仰つしやいますが 其工夫の私達の遣り方一つで 上々へ大變なお迷惑をかける事が出来るんです 私達にして居る仕事の仕事丈に 村の方から理由なく お金を頂戴したり 酒肴の御馳走には預り度くムいませぬ 殊に御存じの貴下のお父様と 縣の方とは 架橋工用地の事で いろ／＼と紛紜のあるところ 假令御見舞として お情け深い 御見舞物でも 世間の人は 而う申すまい 貴下の家から出た金とすれば 世野は ヤレ彼家から賄賂を取つたとか 無い事でも言はれると、道路の改良愛護と云ふ 眞劍の仕事をしてる私共の名折れで御座いますから

涉 いや 其事なら 私が立派に世間へ釋明します世野さん

爲 何と仰しやられても 頂く譯には参りません 第一若旦那 私は此娘の末の爲からしても此節若旦那に私の家へ御出入りなされるのは(ト女房に聞かれて悪しと氣を變へて)いや、やゝ場合が場合ですから 世野は娘を奉公にやつてる弱身から慾野の方へ 裏切したと思はれますから ササットお歸へり下さいまし(トせつなき思入れ)

涉 あゝ父の横暴非道の酬は、自分等兄妹が 人の誠の萬分の一を つくす事にも隔ての難となつたか



泥冠土り砂道

ト失望して立上る 愛子は見るに見かねて

愛 若旦那様 どうかお父さんの心持を、まぢがわなによふにお願ひ……

涉 何間違ていゝものか……お愛……お愛……夫れぢや 僕は歸へります……

愛 若旦那様……

爲 どうか 私達の心持より 娘の心持を察して(ト思入れ)イヤ間違はないよふに願ひます

………どうか悪しからず………

涉は歸へる、お愛は見送る……あとには何か焦け付く香ひ

高 愛や 何かニホフよ

愛 あゝ 大變 皆さんが晩のお菜にとジャガ芋をかけて置たに

ト中障子の中へ這入る花道より道尾と露木 捨言詞にて歸り來たる

爲 オやお歸りなさいまし

道 ヤアどうだい 昨晚は大變だつたナ

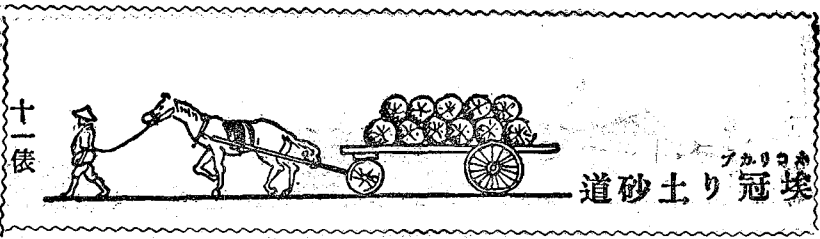
爲 いゝやあなた方こそ お疲れでしたらう 今飯でもすましたら 出かけようかと思ひまして

道 いや そう急がず共 今青年團の諸君や 在郷軍人の諸君も總出動でネ 消防組の方も す

つかり配置は濟んだから

道 時に 妻君は今日はあるいは如何だネ

ト話しつゝ巻ゲートルや 土足袋 雨具等を取り、道尾は直ぐに机に向ひ 報告を書く



お高は

高 ほんたうに 汚なくつて せまくつて お氣の毒様で

道 何に僕と言ふ居候が 今度の水で一人流れ込んだんでネ

此時又雨の音激げしく

爲 あゝ 又降り出したな

此時警鐘亂打さる、

露 オ、非常動員だナ

と皆々出勤準備をする爲藏も仕度に取かかるを道尾は制止して

道 世野君は出んでもいゝよ 妻君が悪いのだから

露 而うだそれに 三日間不眠で 水門口の水防にあたつてくれたのだ 今君一人出勤せんから

とて 止まらぬ水でも有るまい

爲 イヤそりやいけませんぬ且那方に働かして 私が家の中に……………

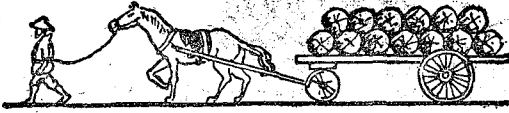
お高は苦しき息の下から

高 而うだ共 私の病氣は内輪の事ですから、お公の御用に立て下さい、よしおまいさんが出張

申私に急變あつて 死目にお互に會へなく共 勤務のためです 何怨みが有ませふ 愛や

お父さんに新しいシャツ と腹巻を

愛 ハイ(ト奥より出て) お父さんお出かか



固めためる砂利道

此時花道より山坂九郎兵衛來たり

山 オ、且那方早く何處かへかくれておくんなさい

爲 何んだん、

山 イヤ 今彼のわからずやの慾野が 今度の出水原因は 架橋工事の基礎工事なんで 河底へ

何か入れやがつたり 彼の子持坂を平にしやがつて 水のはけを 悪くしたのだ等と 煽動をしたので 村の衆が其言葉を信じて 貴下方を殺すと今多人數で押しかけて來ますから 早く〜

爲 何て ワカラズヤだらうか よし 且那樣 私達で此處を一時喰ひ止めますから 貴郎方は

早く裏道傳で ウムお愛 早く且那方を日和窟へ御案内しろ

愛 ハイ

道 イヤ そりやいかん むしろ此際慾野さんの頑冥と 村民諸君の蒙をひらいて 道路改良が

交通上如何に急務なるかを 唱破しなけりやならん

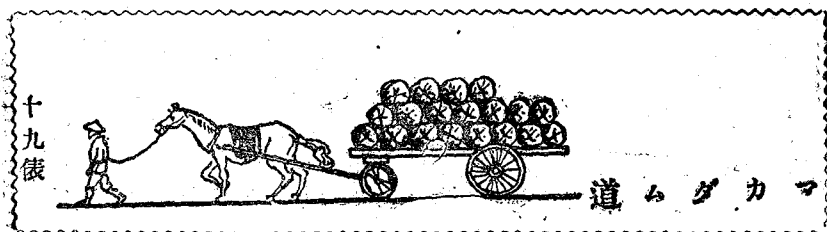
露 よしました 不幸村民諸君の兇暴の犠牲とならば夫りや 吾れ〜の職責上むしろ本懐とする

ところだ、逃げる等は以ての外だ

道 生命を捧げて以て國家に御奉公するのが 我れ〜官吏の本分だ

此時 慾野派の村民は多人數兇器を手にして押し寄せる

爲藏等工夫達は皆の前に立ちふさがる



村民の甲 ヤイ 役人を出せ

同 乙 河底へ何か入れて 水の流を悪くした 罪悪人を出せ

村民の丙 出さなきや 此處の家も打壊すぞ

爲 何んだおめい達は ソリヤ慾野さんから唆かされて来たんだらう……あんまり亂暴すると
いくらふだんのよしみでも 今日ば勘辨しねいぞ

此時慾野來たり

深 エイ お前達は何をグズグズしてゐるんだ 容捨する事はねへんだ 證據は歴然としてゐる

村の者 今強い談判中でムリけす

深 コラ爲藏 貴様は己達の前へ立ち塞がつて なまいきな眞似をするな、何ヲよしッ貴様達一
家を 己の家作から叩き出すぞ ソーレ

村民の二三は 爲藏を突き除けて座敷内へ這入らうとする

村民さあ 早く貴様等は出て行け

道尾 露木は死を決して

露 出て行けと言はるれば出ても行かふ 殺すと言はるゝなら殺されもしよふから 今病人を抱
へてる爲藏君丈にはざんこな 私刑は止めて下さい……ネー諸君は 私達の仕事を誤解し
てるのです 私達が此川の架橋工事に努むるのは 此村の繁榮を計り 諸君の幸福を増進さ
せる爲にはほかならないのです

道トーリウシヨ



三十八俵

漫

録

道 彼の險阻なりし子持坂を平にし 道を擴け土を盛り 砂利をしくのは此の村の交通便利のため道路愛護の爲なのです

村の者 道路を可愛がつてどうするだア、己ら、かかあさへ、可愛がつてればいゝのだ

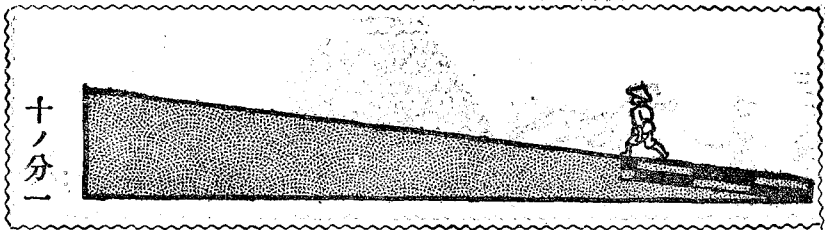
深 左程貴様等が道路を大事にするなら何故割栗や小砂利入れたり おかしな藥なんぞ……撒き散らすだ

露 さあ夫れが貴下方の誤解です 本來の固めない砂利道や土砂道をいつまでも 彼のままにして置いたら どうなると思ひます 申上るまでもなく悪い道と言ふのは 此の附近の様な土砂道 固めない砂利道です 善良な道と言ふのは 固めた砂利道 マカダム道 コンクリート道等の舗装道路です 固めない砂利道では 一臺の馬力に米四俵しか積めません 又唯の土砂道では五俵しか積めません ソリヤ積んで積めない事はありますまいが 夫れでは車が痛み 第一馬が弱ります

村の者 ソレぢや 吾れの言ふ通り よい固めた砂利道にしたなら 一臺の馬力に米何俵つめるだ
露 前車の約三倍十三俵積めます

村の者 其マカダム道にしたらどうなるだ

露 ハイ 一臺の馬力で十九俵 凡前車の五倍一層進んで コンクリート道なら一臺の馬力で米三十八俵も積めしかも樂々と行け、馬もよわらず車も痛まない、それに雨あがりでも晴天でも歩きいゝのです



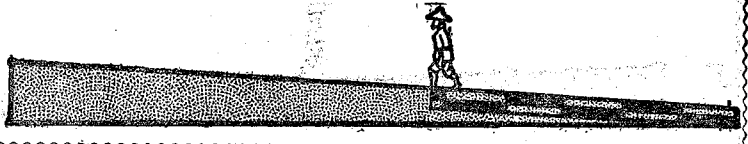
十ノ分一

道 それに坂を平たくすると云ふ事は 交通の發達上 最も必要なことで 今例をあけて申せば 十分の一勾配 二十五分の一勾配 五十分の一勾配 水平の道と區別されます ところで十分の一勾配とは十尺行つて一尺上り

深 二十五分の一とは二十五尺行つて一尺上り五十分の一上りとは五十尺行て一尺上り水平の道とは字の通り 眞平らな事位は 今日此頃ちや子供でも知つてる、

道 ソレ程御承知なら貴下方が 何故 彼の坂を平にする事に不足を言ふのですか 先づ假りに水平の道ですと普通に歩いて 四十分間で一里の道が歩けますが 假りに 二十五分の一道路とすると二十町しか行けません 十分の一道路だと十二町しか歩けません此比例から言つても 坂路の改良 道路の改良は お互が生存上最も手近かな施設なのです 又此川の架橋もソウです ソリヤ平水や天候異變のない時は 渡船でも十分用はたりるのでせうが 一朝出水 風雨強ければ對岸の火事を視ても 急病人を控へてもむざ／＼傍觀するの遺憾があります……ネ慾野さん どうか貴方も正當に村の繁榮 土地の發展策を思はれるならばどうか 一日も早く彼の地所を協定價格で御譲り下さい

深 いやだ／＼ そんな甘口にのつてうんと言つて承知をすりや 徳するのは貴様達計り 己れは地所は高く賣れず おまけに 己の收入の一部である渡船事業は廢される 錄なもんぢや無い 誰れがなんと云おふとイヤだ どうも己はおめい達の言ふ事や する事が氣にいらね 且那樣 おめい様は もう少し大きな考をお持ちになつて どうか一日も早く 此川に橋を



架けられるよう おめい様が先立で お骨折が願いたいのです

程 又しても貴様までがいつしよになつて忌やなこッだく

深 コレ程までにお願しても 御承諾下さらなければ 本意ぢや有りませんが 土地收用法を煩

ら……………

深 ソレガ縣廳の最後の武器か よし やれ 己も行政裁判を起して負けるまでも 争ひを承引

かしてやるんだ

露 公益事業を一つの感情問題化されてわ社會一般の不爲で實に困りますナア

此時舵六は馳せ來たり

舵 旦那早くお歸へりなすつて

深 歸へるところか縣廳の役人共 へこまさにや歸らネイ

舵 いや夫れが外の事ならいゝだが……嬢ちやんが

深 満喜子がどうしたと言ふんだ

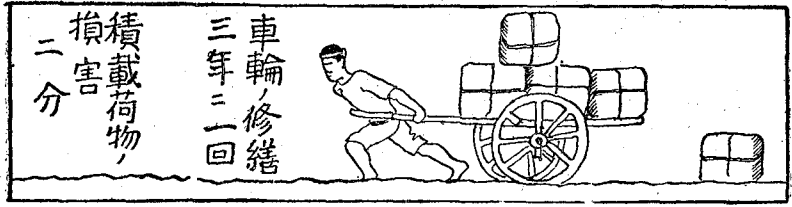
舵 急に變が來たッア

深 何むづかしい!

道 危篤ですと

深 エ、貴機達の知つた事ぢやネエ、……

トさも口惜し想に急ぎ行く



深 エイ 貴様の知つた事ぢやない 子を思ふ親心 岩になつても

△ト振拂つて行く露木も工夫等も氣遣ふ満喜子は身動きする

愛 オ、お嬢さん

道 ウム 兎も角も 慾野さんがお歸りまで 應急手當てでも

△ト自分等のかけたる靴より氣付薬を取り出して親切に介抱する

露 ア、愛子さん水を水を

△ト愛子は立ちて水を満喜子の喉へ……其手を満喜子はとつて

満 皆さん 申譯けありません 愛ちゃん……苦勞さして濟みません 兄さんを……愛ちゃん……

……お頼み……します……

涉 そんな事まで心配せずと アノお父さんが 御醫者様を迎いに行つたから……モウ少しだ

……しつかりして呉れ

満 ……ウ……(トいよく、痙攣ける)

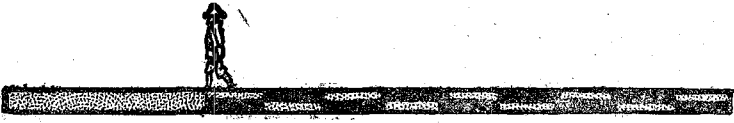
此時慾野深作は強き絶望より憔悴して精神喪失したらんかと思はるゝ取亂したる姿にて

歸へり無言にて座敷に上る並居の一同もサテヲ向地へ渉る事の及ばざるを知り満喜子の

風前の燈火的なる運命に同情して首をうなだる者計り涉は父の姿に目を注ぎ

涉 お父さん お醫者は

満 ……苦しい……ア、



雨の音 ○○川の濁流の響 さびしき合方にて幕開く

涉 妹 しつかりおしよ……お父さんを迎へに行つた者は未だ歸らないのか

満 ……兄さん……（ト咳込む息追々と苦しく）

涉 満喜しつかりおし、今直ぐお父様も来るからネ

△折から急使の知らせに驚き慌てたる父の深作は平素の強慾に似ぬ子煩惱なれば娘の病勢を氣遣ひ 足袋はだしの雨にぬれて馳せ戻り

深 オイ嬢はどうした 満喜や

△雇人一同は異口同音に

一同 お、大旦那様が歸らした………お嬢様がお待兼ねだ

△ト下手に立つ

深 お、満喜子……（ト涙ぐましく）

満 ……と……とう様……

深 ウム判つたか父様だよ

涉 お父様……何をなすつて居たんです妹が待ち兼ねて居ました

深 ぜんたい何うしてこんなに急に……

涉 お父さんが 爲藏さんの家へ 大勢連れて行くと直ぐに氣を失ひ……

深 ナニ己が爲藏の家へ行くと……ウム……判つた 皆彼奴等が 己を苦しめるものだから 嫌

爲 彼の鬼でも子供は可愛いと見へる

露 余程悪いよふですナ

道 サア 仇に報ゆるに徳を以てすだ まんざら彼の娘の病氣にかゝりあいの無い事はないんだ

から

露 オ、幸ひ愛さん 君所長を案内してくれ給へ

ト此時お高は不安想に

高 お父さん お前さんもお供して

爲 ウム 萬一の時にや今度こそ

ト意氣込む (木頭)

第三場 慾野深作座敷

◆舞臺

三間常足廻り椽付 上手床間 下手より正面襖出入り 中央よりや、上手の方 ベット

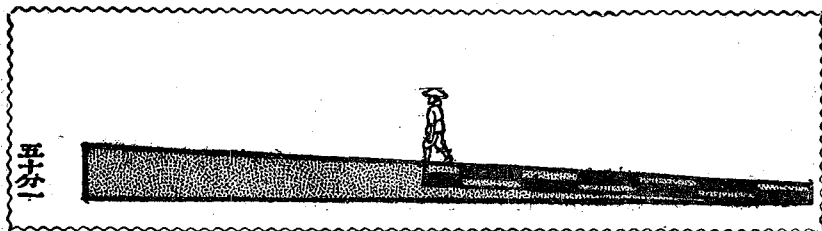
には娘 (満喜子) 病臥の體 枕元右側に 唾壺 藥瓶 置物に西洋草花 床間には活

花 座敷下手の隅に机 机上には 書籍 置時計 硯箱 寫真 手金庫など配置宜敷

枕元上手側に兄の (涉) 下手には雇婆 男女雇人など居並び一同 (満喜子) の病勢

革まりたるを氣遣ひ居る

五分一

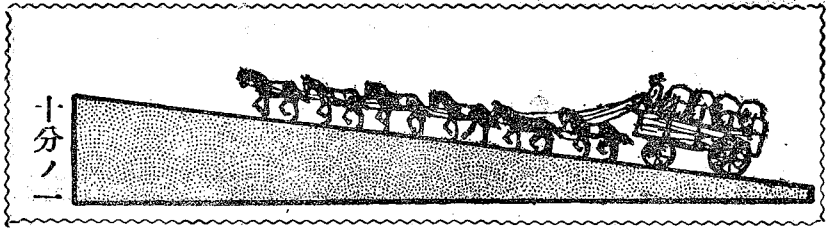




渡船場はどうなる 己が買占めた彼の地所を 縣廳で 勝手に定めた値で買ひとられてどうなる 己は可愛い我兒のためは以上の富を作らなければならぬ 己れは世間より何より前達と云ふ二人の子供が可愛いのだ 其の可愛二人の子供の中の一人は彼の魔の如ふな 役人共に呪はれて 死に導かれつゝあるのだ (トますます 冷静を缺く)

涉

お父さん 病人が居るんですよ 靜かにして下さい……よく考へて下さい 今貴方は 世間より何よりも 私達を可愛いと仰つしやつた モシ夫れが偽でないなら 其可愛我兒の言ふ事も聞いてやつて戴きたい 私や妹は親たる貴汝の恩も慈愛もよく知つてます けれ共お父さん 人間の正義を無視し 公益を顧みないまでの非道をして迄 富を作つて遣こしてくれいとはお願ひしません 又 そんな不徳を敢へてして 遣した金が何に成ります 決して私達子供は幸福になる事ぢやありません かうして貴汝が 惡魔とのゝしり 仇敵と叫ぶ土木課の方達の 現在やつてる仕事の凡べては 決して私利私慾ではありません 道路愛護の必要 道路改良の急務な事は今更ら云ふまでもない事です 文化の進展 交通の發達 道路改良の趣旨から申しても 架橋の必要に迫まれて居ります 終日を炎天下に身をさらし 夜は遅くまで机上に設計の萬全を究むるも 貴汝に惡魔 仇敵とあらゆる侮辱の限りをつくされても 隱忍自重 しかも尙ほ仇に報ゆるに 恩を以てし 一旦は溺れて死せし妹を蘇生させて下され又今妹の病氣を氣遣つて下さるも みんなお自分達の爲ぢやない 悉くが吾れわれ生民の爲 國家の爲です お父さん 僕や妹のお願ひです どうか懸案になつて居る お



も それを氣病みにして……畜生畜生 かへすくも憎い奴だ

(トただ他人を恨む形相も凄く)

満 お父様……待ッて……待ッて……頂戴……其お父様の御心持が……妾……お恨みです……

深 何を云んだ 私は他人からは怨まれても 子供から恨まれる覺へはない

△戶外には雨の音烈しく此の時慾野娘の危篤と聞き同情して驅けつけし

道尾 露木 水防仕度の爲藏は愛子の案内にて來たる

道 慾野さん只今は失禮……御嬢様の御急變と……承はりました 實は差出がましくも取あへず

御見舞に……

深 え、又しても 執念深く己を苦しめに來たか 娘がこんな急に悪くなるのも 皆貴様達が

くだらない事を言ひ出して 己を苦しめるので 夫を氣病みして 可愛想に……

露 アツ夫れは 何かの誤解で……

深 誤解も何もない……貴様達は 慾野一家にとつては惡魔だ……此川に橋を架けて 己から渡

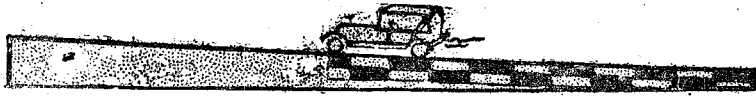
船賃と云ふ 収益を奪をうとしたり己の宅地を取り上げて 街道の 架橋通路にしよ……とす

る 役人共は 此己の仇敵だ

涉 お父さん 何を詰まらない事を 仰つしやるのです 妹の病氣は お父様が 何等公益をか

へりみない其頑冥さに 泣かされての病氣ですよ、

深 え、又貴様迄が此役人共に みいられて くだらない 事云ふな 此川に橋を架けられたら



五十分

ト怒鳴る満喜子はとても父の改悟せざるに絶望して危篤に陥る

涉 お、妹しつかりしておくれ お父様 妹が オイ満喜子や……

深 オオ嬢や何故しつかりしてくれない (段々満喜子は息迫る)

ア、 娘が オイ誰れか醫者を……早く醫者を呼んで来い

△トますく深作は立騒ぐ、苦八はさも偶然らしく

言 呼んで来いと言つても 醫者は○○町へ行かにやありやあしねいだに

深 ソンナ事は知れた事だ 早く○○町の醫者を呼んで来い

△トあせる満喜子はいよく昏醉状態 涉も耐へ兼

涉 妹しつかり……お父様満喜子が……

深 ウムオイく早く醫者を 嬢や今醫者が来る……モウ少し心をたしかに オイ苦八 何故グ

ズくして

苦 ハア 旦那様の仰せですが○○町へ渡るにや 川が

深 川がどうした 渡しを渉るは當然だ……

苦 でも此出水では到底もく

深 馬鹿奴 横著者奴 此位の出水がなんだ 己れは此前の大雨などには 皆の者が 行かれぬ

と止めるのを 船を出して旅の大金持を 向地へ渡らして 二十圓と云ふ渡賃を貰つた事が

ある……苦八は年をとつて氣力がないから駄目だ オイ 掉七お前は大胆者だ 主人の爲だ

父様の 彼の所地を提供して 一日も早く架橋工事にかゝれるようお父様……（ト熱涙以て父を諫む）

△熱誠以て父諫むる兄の聲に妹満喜子は少しく眼を開き微かなる笑をもらす

深 ……………

瀟 ……お父様……お父様……どうか……お兄様や 私を可愛いと……思召なら お父様……今

の……兄様の言ふ事を……ネ ……お父様

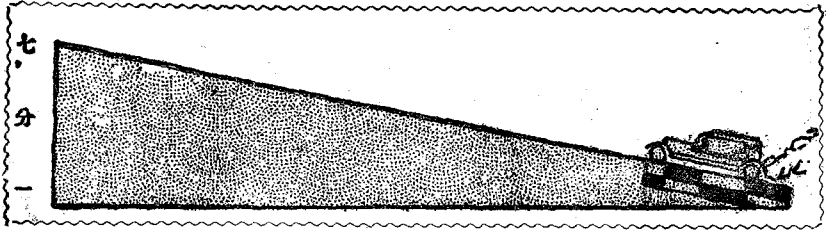
深 ウム 可愛想に 病人のおまい迄に こんな苦勞をかけるのも彼の土木の奴等か よし今己が仇を討つてやる

瀟 お父様……私其お心持ちを……直ほして頂きたいん……です……どうか……一刻も早く橋が此川に架る如ふ……妾が可愛いと……思召たら

涉 お父様 今の妹の血の叫びが 判りませんか
ウム……満喜子や おまいの可愛さも 心もちもよく判つてる……が……此土地を 架橋通路にする事丈は……誰れが なんと云つても……いやだいやなんだ

△ト土木官吏の方を睨みて

エイ……貴様達は 何故いつ迄其處に居るのだ……早く歸へれ 行け お愛貴様は不義して 己の家から 暇になつたを逆恨みして 態と こんな者を案内して來たな……オイみんなど 此奴等をつまみ出せ 舵六は居ないか 掉七はどうした……オイ……誰か居ないかッ





ソール……可愛い娘の命には代へられぬ 償ひの金はいくらでもやる サア 誰れが行つて来てくれ サア此通り金はいくらでもやるのだ(ト札束を一同に幾封も見せる)

とても渡渉も渡船も出来ぬと知ればタダ顔見合す計り深作一層イラッて

深 金を遣ると云つてるぢやないか オイほうびを遣ると云つてるのだ 誰か行くものはないのか……ウム 舵六おまへだ、お前は私の忠實なる奉公人 おまいなら行けよう

舵 ……………(困つたと思入あり)

深 お前は 己が誰よりスキだ 給料も おまい丈には十錢づゝ餘計にやつてる ソレワこんな萬一の際に用をたして貰いたいからだサ 舵六 おまい行つて来い

△ト云へ共舵六無言 満喜子の臨終いよゝ近からんとす

深 エ、是程に云ても 誰れも行く者はないのか 此意氣地なし奴……よしソレチャ己が行つて来る

△ト狂氣の如く立上り

深 ほんたうに なんと云ふ腑甲斐ない奉公人達だ……オイ……誰も行く者はないのか……金はいらんのか……是程言つて行かなきゃ……よし已れか行く

△ト血相變へて立つ渉と道尾等は止める

渉 おとうさん 無法な 何うしてそんが事が

道 とても出水で 人力では成し得ません



娘の命を救ふ爲 ○○町の醫者を呼んで来てくれ

掉 ハア

△無駄と知りつゝ行かねばならぬ後難の恐れ……力なくなく立上がる

深 嬢や今忠義者の掉七が 醫者を迎に行つた 直ぐ来るから待て居てくれ……

△ト満喜子に水を含める此時又もや豪雨頻りに降り出し風勢も増す折から掉七は悄然として戻り来る深作は見て

深 掉七 モウ行つて来たのか 大變早い ほんとうに貴様は忠義者だ……ソウして先生は来て

くれると云つたか

掉 ハア

深 何故いつしよにお連れ申さないのだ

掉 旦那様 かんべんして下さい

深 どうした

掉 己ら 行つたが船は出せねいだ とても今ぢや 平水から七八尺も増しただ、新田口の堤防

さへ氣遣はれる出水だ とても 船などは 出されねい……

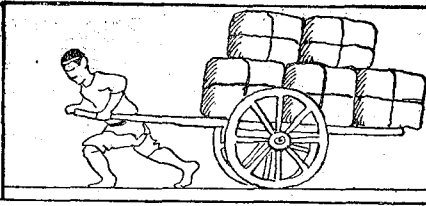
深 エイ……大馬鹿者奴 ソンナ水量を調べに遣つたのでは無いんだ よし貴様ぢや 駄目 オ

イ誰か 向地へ行つてくれる者はないか ソウダ

ト心づき手金庫より多額の金を出して

車輪、修繕
三十年不要

積載荷物
ノ損害ナシ



涉 お父さん 満喜子は……此通り……………

深 ウム……水は段々増す計り 風力は強くなる計り……とても 向地へ渡るところか 川邊に

三分と 立つて居れん

涉 それぢや 矢張りお醫者様は

深 來るところか……あゝ、迎ひにもいかれんのだ……

折から風力ますますく加はり水勢滔々として物すごく聞ゆ

一 同 ……………

深 ア……折も折とて 何と云ふ雨だらうか……ア、何と云ふ風だらうか……こんな時に醫者さ

へ来てくれ、ば可愛い娘の命はとりとめようも あらうものを……(ト満喜子が總身に痙攣を起し起し初めたるを見えますく強度の失望) ……あゝ、娘の命に……代へられるもの

なら……己が代つてやりたい……オイ……醫者は呼びに行かれないのか……向地の醫師は……

……ウム…… 此雨風では 渡船も渡渉も出來んのか…… 何と云ふ魔の風だらう……あゝな

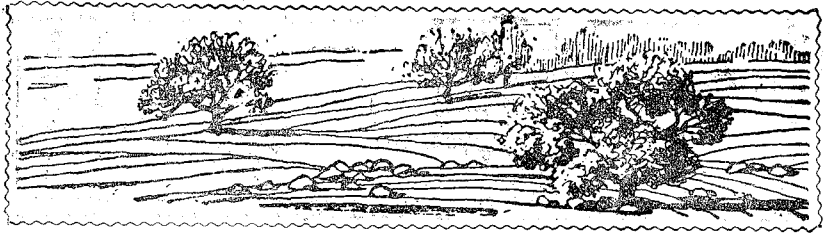
んと云ふ無情な雨だらうか(ト水勢強き川邊を睨み) こんな時に 此の川さへななければ 自

由に向地の醫者も來られよう…… イヤ川は有つても渡船でもあれば立派に迎いにもい

けように 此雨此風では イヤよしんば 此川があつても渡船がなく共せて(橋)一つ

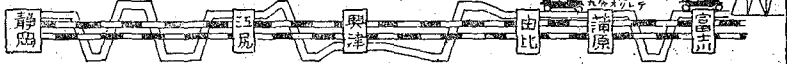
も架かつて居たら向地とどんな往復でも出來たものを…… ウム……橋! 橋! 何故 此

川に橋の一つ位は架けないのだ ……ア、縣廳の役人達は どうしたのだ……………

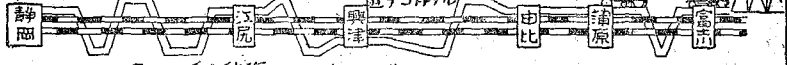


道路ヲ改良シナケレバ

自動車
 一日=五十台(大人乗リニシテ)が往復スルモトスレバ
 一日=十人遊ヒ
 一月=三百人遊ヒ
 一年=三千六百五十人遊フコトナル



馬力
 一日=百五十台(一台ヲ人三人トシテ)が往復スルモトスレバ
 一日=八十七人遊ヒ
 一月=二千五百人遊ヒ
 一年=三万一千六百三十三人遊フコトナル



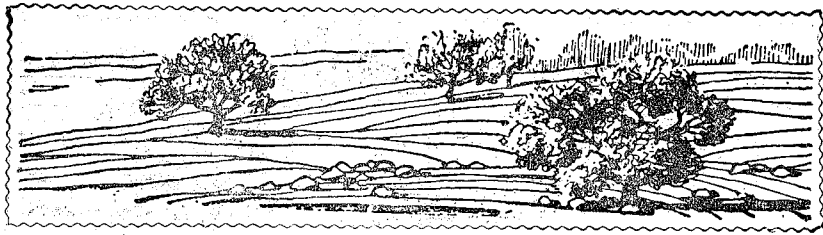
歩行者
 一日=一千人往復スルモトスレバ
 一日=百四十八人遊ヒ
 一月=四千四百四十三人遊ヒ
 一年=五万四千六十一人遊フコトナル



工部省
 土木課
 長 岡田

静岡、富士川、浜岡、間、岡、如ク汽車道路トシテ入ケル所アル。板リ=片方=十人、一介隔列車通過
 10分待合ハセル一列車ノ通過ニ對シ2×10×1.0×8=160分無駄ノ時間ヲ費ス。列車ハ晝
 間六十八回通過スレカラ70.880分即チ181時間35分無駄ニナル。コレヲ一月、一年ニ積レバ
 大ナクモナリマス。道路ノ改良ト否トハ皆様ニ及ボス影響カ大キキモ、モ、ハアリマセウカ。

一タスボ傳宣良改路道縣岡靜
 照參事記欄情事方地號前 (寸一尺二横寸八尺一縱)



：橋を……ア、橋さへあつたら……娘の命は 取止められるであらう橋は どうして架け

ないのだ！ 己れの娘の命を取るものは……此川だ…… イヤ橋がないからだ…… オイ縣

廳の役人は何してるのだ 此川に橋一つ位は！ ……内務省には眼明きは居ぬのか呼鳴

道 其一つの橋の架からないのは 慾野さん 貴汝が 架橋通路に當る 宅地附近を譲り渡して

下さらない計りで……

露 架けらる可き橋…… 又 架げなければならぬ橋も基礎工事にすら、充分手を染める事が

出来ないのです

道 道路の改良と愛護の中でも 橋をかけたり 良く直したりする事は 路面をよくすると同じ

意味で 最も必要な事なのです假りに 貴下が 三年前に 此地所の譲渡を御承知下さつ

たら 今月今夜の嵐の夜にも つつがなく 向地との往來も出來 嬢様への應急手當ても

立派に 醫師も呼び迎へられたでせう

露 現在僅か〇〇〇千米突の向地には立派な救の主の醫家あるを望みつゝ此川一つに隔てられて

呼び迎へられず まのあたり妹さんの死を見ごろしにしなければならぬとは 涉さん御察

します

涉 有難ムいます 平素父がモウ少し公利人徳を重んじて居て此の土地譲渡の係争問題もなかつ

たらトウに命の綱の架け橋も立派にかゝつて居りましたらう……に……お父様 いかにも渡船

の不便と交通機關の完備の要を悟とられませんか

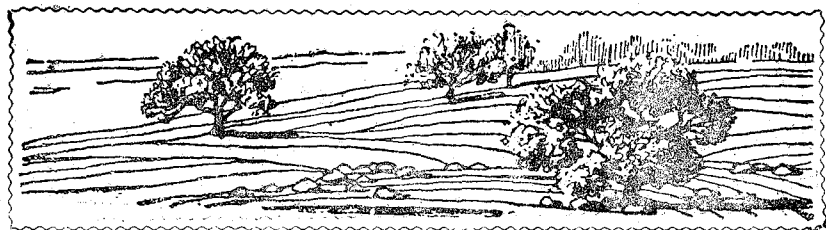


滿 …… 父様…… 父…… 様…… どうか（ト口を顫はし動けぬ身體を僅かに動かし道尾や露木の土
木官吏の方を見廻し早く橋の此の川に架けられるやうと表情）ネ……… 父様………

△深作は身を顫はし

深 娘……許しておくれ……私は何と云ふ愚者か……眼中私利我慾以外人情もなく國家もなく
何等人徳を重んじなかつた天罰は今まのあたり報ひ來て 私人の頑冥から架橋工事が遅れ
た計りに現在 取止めらるゝお前の壽命も取止める事も出来ないで……しかも……あ……
己れの娘の命をとるものは彼の川でもなければ 洪水でもない 風でもなければ雨でもない
私の頑冥さが娘の命を奪ふのだ……あゝ私は我子計りではない 社會の人々にも今更ら面目
ない……あゝ此罪……今日までの非義非道はまさに挽死に値ひすべきだ……（ト天を睨み）
エ、降れ（川邊の方を見て）エ、吹け彼の逆巻 怒濤……何故 己の命をとつてはくれない
のか エ、流れよ 流せ 我が罪惡天も地も何物をも流す如ふに流がして罪を宥してくれ
い……滿喜子 父が悪かつた すまなかつた（大ぜいに向ひ）皆さん 濟まなかつた 許し
てくださいい……あゝ 自分の頑冥さ故に 我娘を殺す 此己れを風雨と共に笑つて下さい
嘲けつてください

△ト恰も狂人の如く聲を顫はし叫び 滿喜子の顔をのぞき込む 滿喜子は少しく起きあ
がらん計りに父の顔に我顔をすりつけて何事かをさゝやけば深作は滿喜子の懐中より手
紙を出して開封し中途まで黙讀して



深 何と言ふ涙ぐまじき事だらう 已にはもう讀めない 涉おまいが讀んでくれい

△ト手紙を渡す

涉 ウム 而ふか(ト手紙の文句にて了解したる如く)よし／＼ 満喜子おまへの心持は おまへの胸に抱いた 土木の功勞者露木さんに お傳へしよう

△ト満喜子の手文庫より 一封の手紙と サツク入りの指輪とを取出し

涉 露木さん 誠に申兼ますが何卒是を讀んでやつて下さいませ、妹は 病苦に悩む其前に 初恋にも……悶へて居た……のでした……どうか……憐れむべき人生の早世者 妹の深い傷手を察して……此記念の品を 受取つてやつて下さい

△ト露木は手紙を開封して讀み道尾と顔見合せる

……………

道 露木君何をだまつて居る 早く／＼受取つて上げなさい(ト露木のはづかしき態度を察して……満喜子に向ひ)嬢さん 貴汝の 深きお心持は 露木君に親友の僕から お傳へして承諾させました

……………(微かにホ、笑む……………)

△涉は遺書の後節を讀む

涉 よし／＼ 何事もお父さんに申上よう(ト手紙を父に示す)

瞑想にふけつた 深作は涙と共に見て……



深 ウウ 満喜子の言ふ通り……己れの不注意故 傷ついた爲藏さんの女房へ 慰藉金として 金三千圓……ソウして今日から其娘の愛子さんは 私が許して涉と夫婦にさせた上 私が蓄積した財産の二分の一を世襲財産として遺こす、あと二分の一の財産は露木さんの名を以て道路改良會の基本金に寄納し 娘が永代の冥福を祈るため 道路の改良と愛護の實を擧げて頂きたい

△ト手に握りし紙幣貨幣公債社債をバラ／＼と落す 満喜子は是を聞いて最後の笑を洩らし
満 ツ……ツ……露木……さん

道 オ露木君 嬢さんが（ト目配して露木を満喜子の傍に押やる）

露 僅露木です しつかり爲さい……貴女の眞心ろで お父様は改悟なされました 到々樞要な架橋工事も 明日から順調にかゝれる様になつた事を衷心から感謝します

愛 ニ……さん ニ……兄さん ア……愛……ちゃんを

涉 愛さん妹が

△ト愛子を側へ呼ぶ満喜子は

瀧 愛……愛さん……

ト兄と愛子との手を握らせて 露木と父に會釋し微笑の中に臨終到る

深 ……オ、娘……満喜子……満喜……

涉 父様モウくやんでも還らぬ事です（ト満喜子の耳に口を寄せて）満喜子 お前は 心に盡かい



た愛人の膝を枕に眠りについた。せめては夫れを生涯通じての幸福とし後に心を遺さずに
天国へ……

愛 嬢様 及ばずながら涉様やお父様のごめんどうは……此愛子が致しますから

満 ……ド……ド……ド……ゾ……タノ……ミ……一

△其聲あるが如く又無きが如く斷未幽暝界を隔つ

道 窓野さん 是れにつけても惜しい事は 此架橋工事の遅れた事です 此川にかゝる一つの橋

は百萬圓の金で出来ますが人の命は千萬金の黄金の力でも求める事が出来ません

△ト此時分より雨もやみ 風勢も衰へ おほろ月もさえて 戸外よりさし込む

月光に道尾は満喜子の顔を見 深き同情の涙と共に

道 それにしても 貴き犠牲でした 嬢さん!! 貴下は 嵐の夜の風に 命を奪はらるゝとも

貴き貴女の諫死によつて 永い間の懸案であつた ○○川の架橋工事も着手が出来後世往來

の人の交通の便 産業の發達 國富の淵源とも成りませう……貴汝の命はつきる共 靈魂は

永久に 不二川橋の礎となり 如何なる天災地變にも 萬代動かぬ 天下の名橋……どうか

心置きなく靜寂の域に達して下さい……

△深作初め一同嗚咽し悄然として首垂れる折か遠寺の鐘聲一段さびしく響き、杜鵑一聲

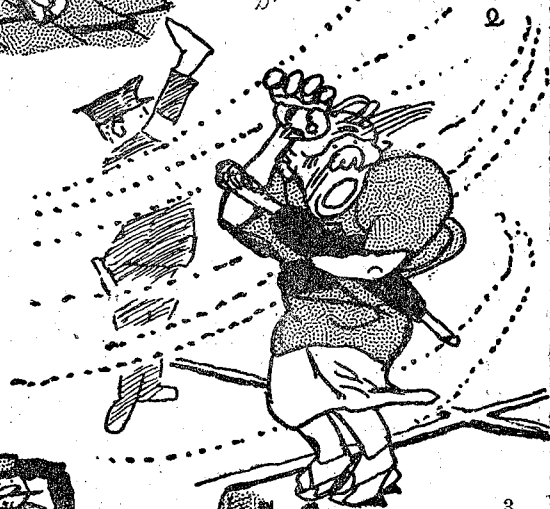
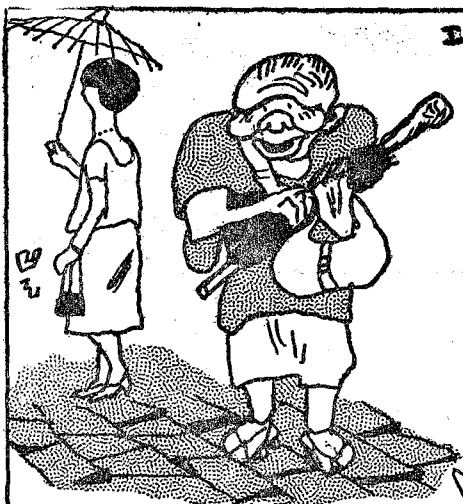
綠蕾空に歸すると共に、——キキ——ゆるやかに暮—— (終り)

道路改良漫畫

下川 四 天

おシワ婆ちゃん六十八分間の夢

1 おシワ婆さんは山ばかりの國で育つたで一度東京を見物し立派な建物やコンクリートの滑つこい路の上を歩いてみたかつたそれが六十八歳の今日叶つて上野で汽車から降りた。



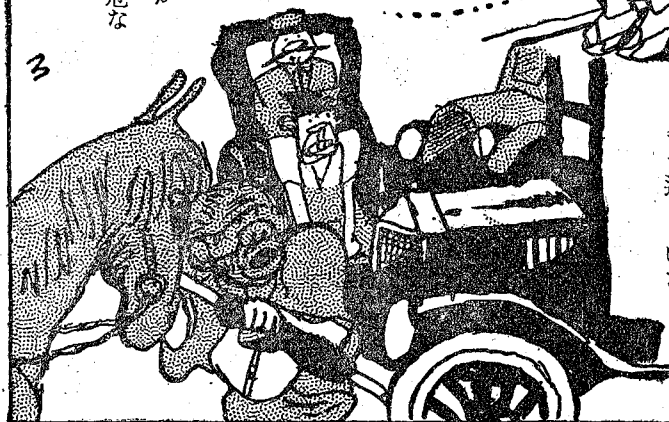
先つビックリしたの

はコンクリートの滑つこくな

い事で凸凹で目茶々々其上埃が

澇を巻きちつとも前が見えず危な

くて進む事が出来なかつた。



3 電車の四ツ辻を横切るふもして四方八方からいろくなものに挟まれて又ビックリした狭い路に電車自動車がゴチャ返していった。

4 人道も車道も木煉瓦砂利で歩く事が出来ないくらの逃げ場があるふが無かるふが撒水夫は遠慮なく水を撒きちらして行つた。



5 撒水夫をよけ木煉瓦と砂利をよけたヒヨーシに婆さん大穴へ落ちて仕舞つた『未だ穴へ這入るには五六年早いんだ』と大憤慨



6 遂に東京が恐しくなり六十八年の夢から醒めて古郷へへトくになつて歸り『東京と云ふ所は山脈の様な路と沙漠の様な埃のある所だ』と説明して山男や山女達をビックリさせた。

